



マーチャント・バンカーズ（株）
2022年3月期決算・補足説明資料

2022年5月13日

東証スタンダード（コード：3121）



マーチャント・バンカーズ株式会社

2022/3期 決算損益サマリー (大幅増収・増益)

- セグメント別利益は、マーチャント・バンキング事業が594百万円（前期比+18.9%）、
オペレーション事業が▲61百万円（前期▲105百万円）
- 大幅増収に加え、販管費を抑え、営業利益は335百万円、経常利益218百万円、当期純利益70百万円

(百万円)	2021/3期 実績	構成比 %	2022/3期 予想	2022/3期 通期実績	構成比 %	予想比 %	前期比 %
売上高	1,635	100%	2,650	2,720	100%	+2.6%	+66.3%
マーチャント・バンキング	986	60.3%	1,950	2,080	75.7%	+6.7%	+161.9%
オペレーション	649	39.7%	700	640	23.5%	▲8.6%	▲1.5%
営業利益	219	13.4%	450	335	12.3%	▲25.5%	+52.4%
経常利益	132	8.1%	350	218	8.1%	▲37.4%	+64.8%
当期純利益	▲44	-	230	70	2.6%	▲69.2%	

2022年3月期 決算総括

■ 業績面：

① マーチャント・バンキング事業：好調に推移し全体業績を牽引！

第1四半期に、営業投資有価証券として保有する CN Innovations Holdings Limited の売却に加え、函館市の福祉施設の売却が進み、売上・利益貢献となった。第2四半期には、大阪市天王寺区収益用マンション、第4四半期には、札幌市中央区収益用マンションを売却。

これら資金回収により、収益不動産の取得による安定的家賃収入の拡大に加え、不動産開発や不動産ブリッジ案件、連結貢献できる企業 M & A を積極推進し、収益力を向上する。

② オペレーション事業：収益性改善し、赤字幅の大幅縮小！

既存給食事業等のオペレーションは堅調に推移。子会社ケンテンの店舗でのプロモーション販売・ブルーポートホテル苅田北九州空港など、通期にわたり、コロナの影響受けるも、赤字幅を縮小し、2023年3月期に黒字回復予定。

■ 新中期経営計画を推進中！ 2024/3期目標：売上高30億円、営業利益10億円（8/3日に修正発表）

1) マーチャント・バンキング事業（売上高計画 21/3 期 9.3 億円 → 24/3 期 30 億円）

・不動産投資・企業投資事業：安定的な居住用の賃貸収益物件の積み上げと、ブリッジ案件・開発案件への取り組み

2) オペレーション事業（売上高計画 21/3 期 6.5 億円 → 24/3 期 7 億円）

・給食事業を中心に各商業店舗のオペレーション事業による利益貢献

・ネット販売事業：既存商材に加え、NFT活用のお宝グッズのネット販売で売上拡大を図る

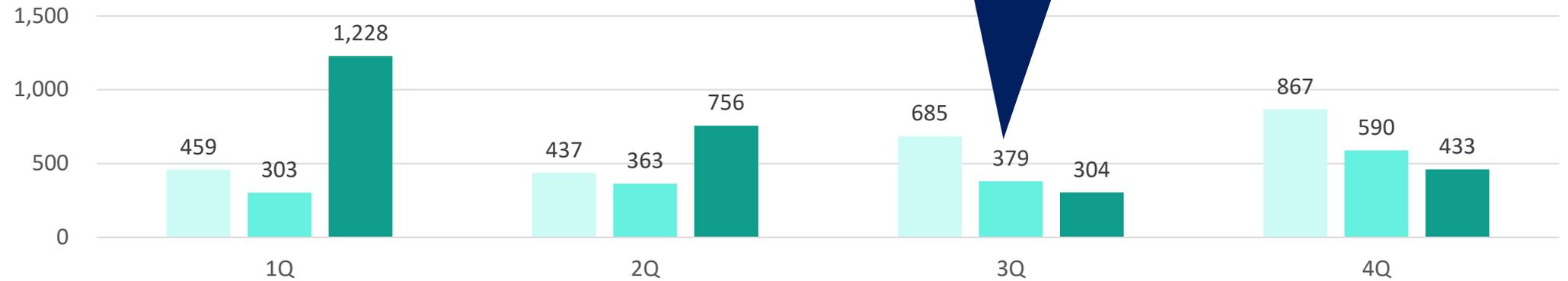
四半期毎の売上推移

(百万円)

■ 2019年度 ■ 2020年度2 ■ 2021年度

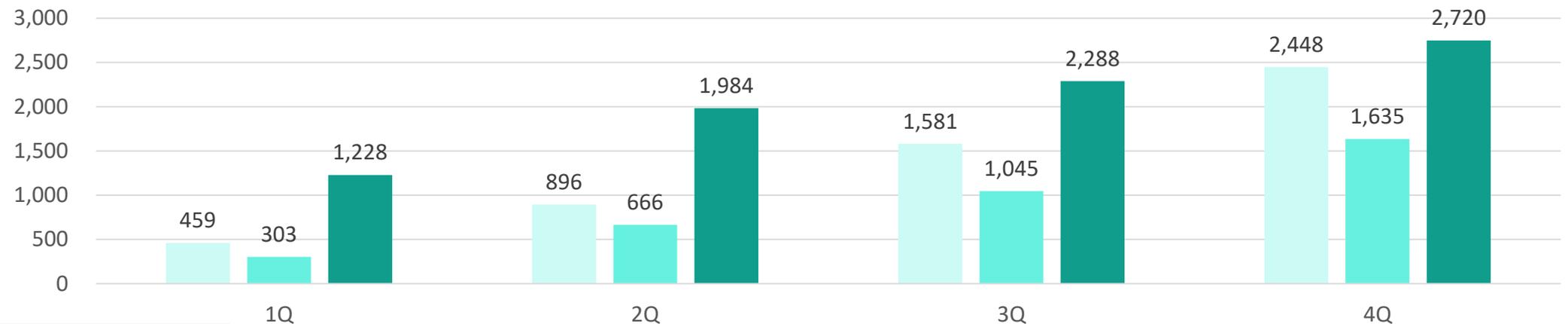
四半期売上

20/11末ホテル事業撤退

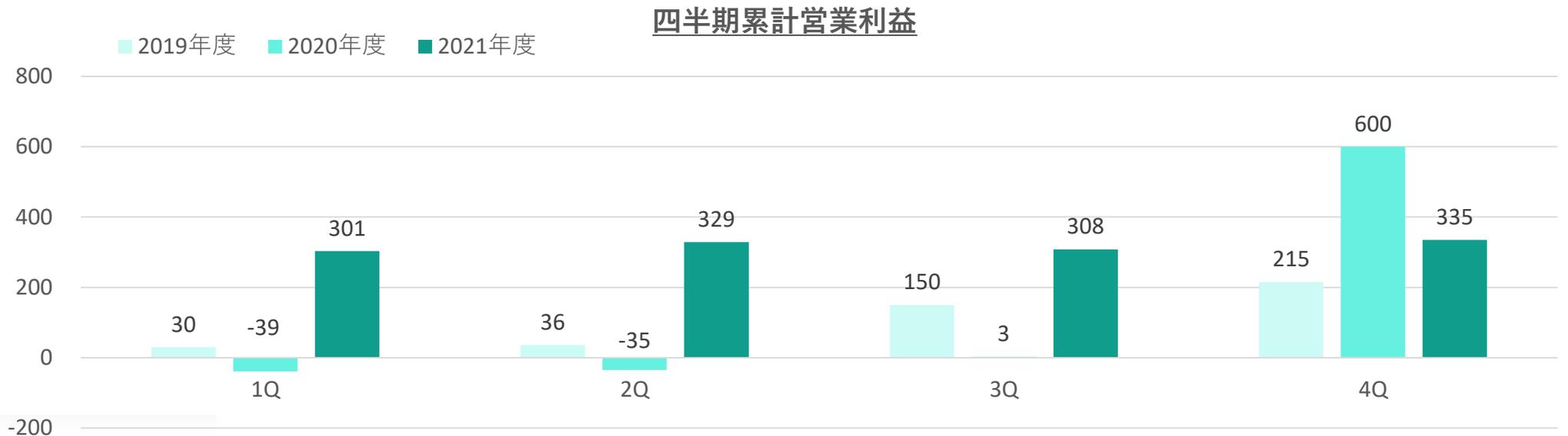
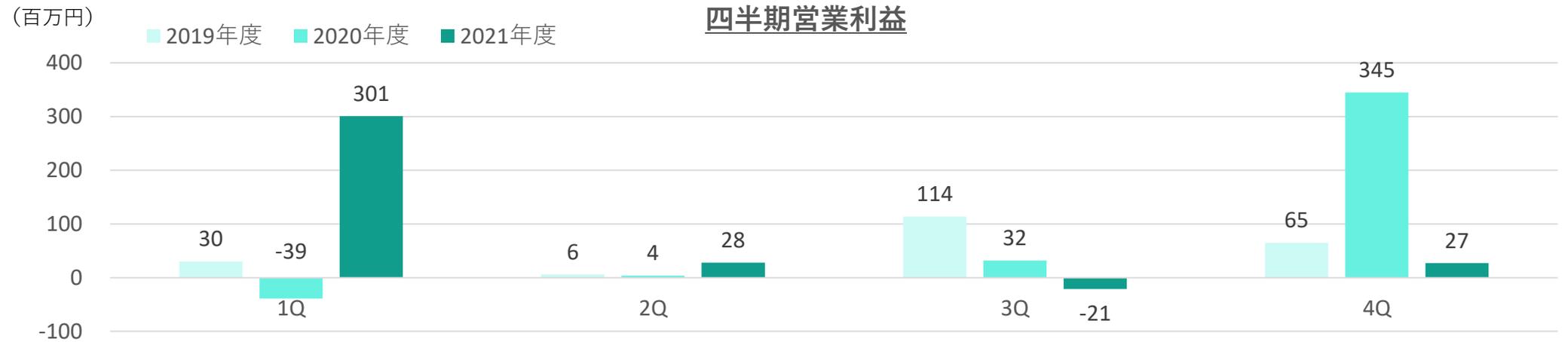


■ 2019年度 ■ 2020年度 ■ 2021年度

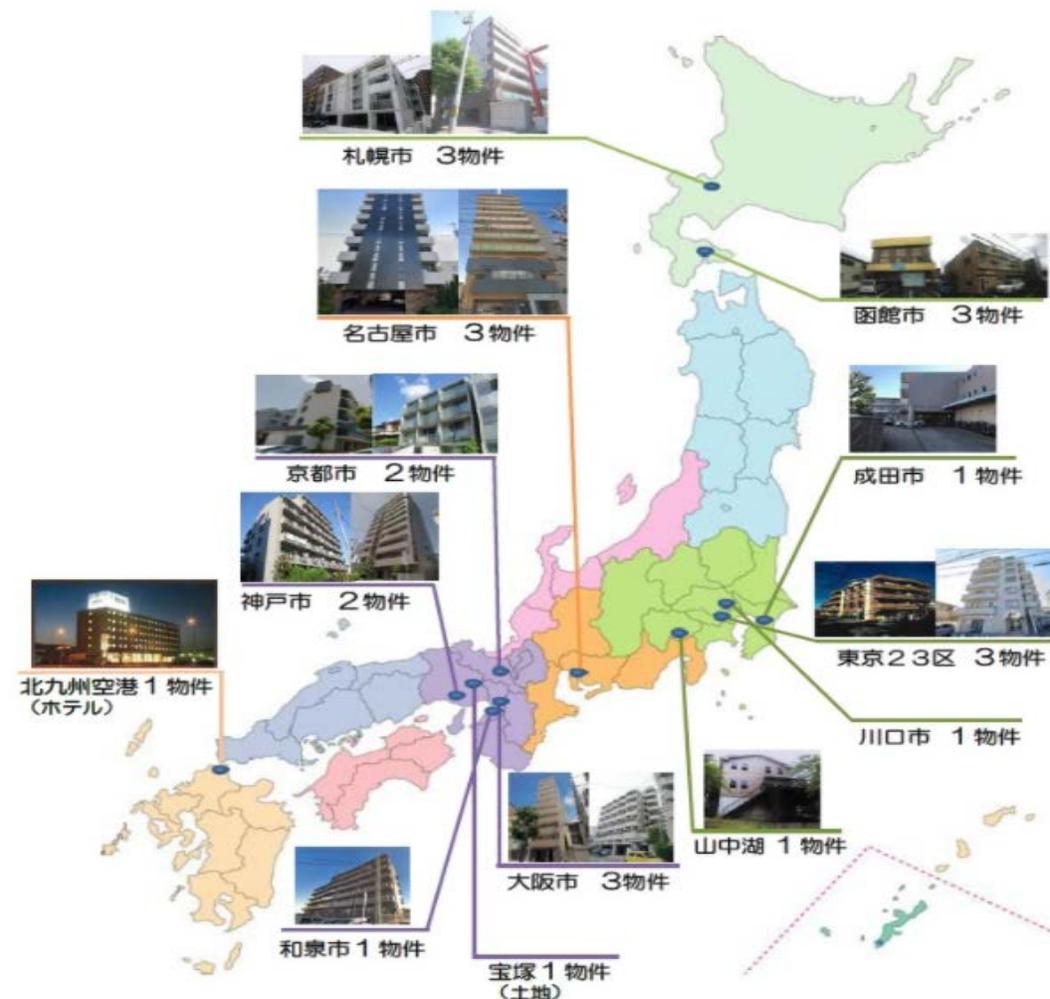
四半期累計売上



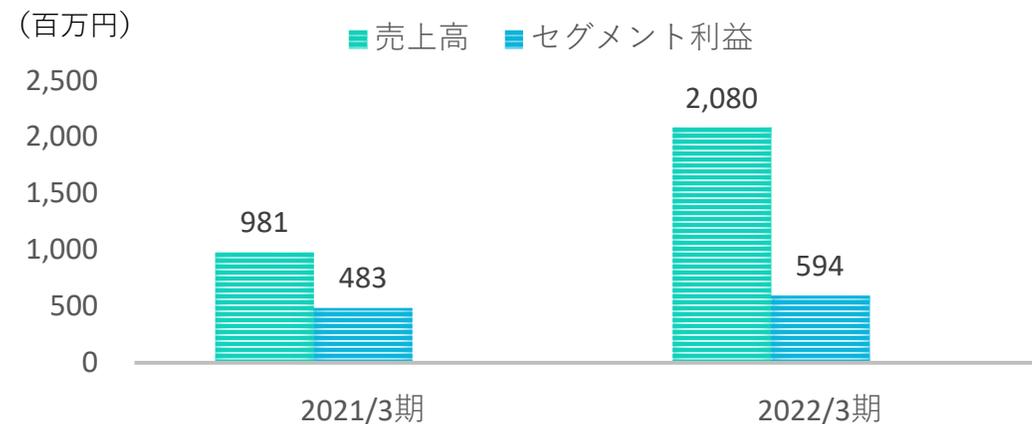
四半期毎の営業利益の推移



マーチャント・バンキング事業 (当社安定収益源の賃貸マンション)



- 2022/3期は、収益不動産3物件を売却
- 営業投資有価証券の売却
→ 合計14.5億円
- 全国に22棟の不動産賃貸ビル保有
(約100億円)
- 年間家賃収入 (約6億円、5~6%利回り)
→ 収益物件取得により、年間10億円体制目指す
- 賃貸マンションが中心でコロナ禍の影響無し
- 引き続き、積極的に、優良物件をリーズナブルに購入



オペレーション事業（赤字額の縮小）

北九州空港至近、北九州工業地帯内立地
福岡県京都郡苅田町苅田3787-61

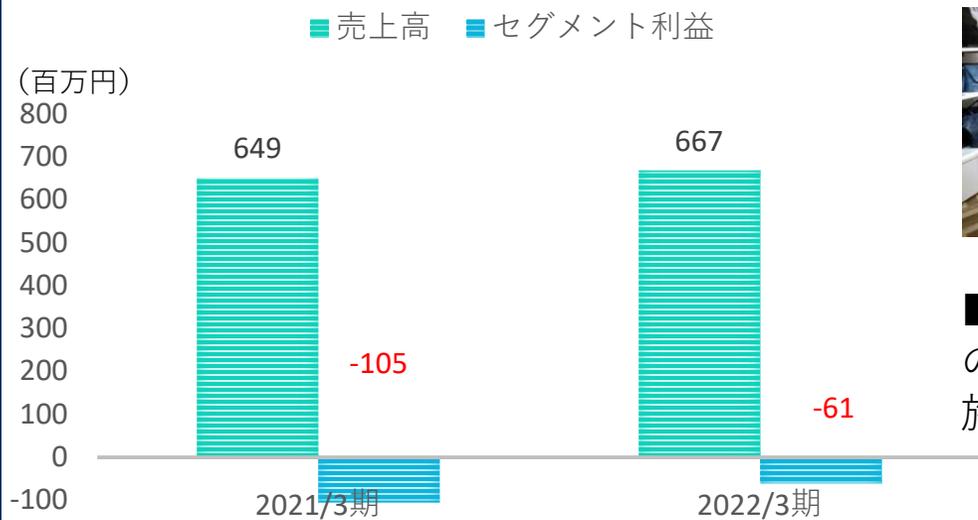


■ 新型コロナ禍の影響を受け、
ホテルオペレーション事業より撤退

自社物件の「ブルーポートホテル苅田
北九州空港」は自社オペレーションに
よる収益力強化のうえ、売却予定



■ 愛媛大学医学部附属病院
給食事業



■ 子会社（株）ケンテンは東急、JR東日本、イオンモール等の商業施設内の店舗、催事場での期間限定店舗の企画・販売を実施。コロナ禍でのニーズ拡大。インターネット販売を強化。

トピックス 1 (滋賀医科大学との提携)

滋賀医科大学との産学連携による糖尿病治療薬開発に関する基本合意のお知らせ



2022年1月4日

各位

会社名 マーチャント・バンカーズ株式会社
代表取締役社長兼CEO 小 貫 英 樹
(コード3121 東証2部)
問合せ先 代表取締役副社長 CFO兼財務総務部長 高 崎 正 年
(TEL 03-6434-5540)

滋賀医科大学との産学連携による糖尿病治療薬開発に関する基本合意のお知らせ

当社は、本日付で、国立大学法人滋賀医科大学（以下、滋賀医科大学といいます。）と産学連携のプロジェクトとして糖尿病を完治する治療薬の研究開発に取り進むために、共同研究講座を設置することにかかる協約を開始することについて、基本合意いたしましたので、お知らせいたします。

a. 産学連携の理由

滋賀医科大学は、1974年に開学した国立大学で、滋賀県内唯一の医科大学として、地域医療への貢献とともに、特色ある医学・看護学教育による世界に発信する研究者の養成を、基本理念として掲げています。その中で、糖尿病や再生治療研究の第一人者であり、小島秀人教授を研究開発責任者として、以下の研究（以下、本研究といいます。）に取り組んでまいりました。

① 糖尿病を完治させる治療薬の開発

糖尿病は、不治の病とされ、血糖コントロールを行う対処療法の治療薬しかありませんが、滋賀医科大学では、糖尿病を慢性化させている原因細胞を発見し、また、その細胞を排除することができる治療薬並びに治療方法を発見し、これを実用化するための研究を進めてまいりました。

② 細胞標的化技術

滋賀医科大学では、生物のほぼすべての細胞それぞれに、7つのアミノ酸が結合してできる、約18億通りの「ペプチド」について、データベースを完成しました。さらに、このデータベースにより目的の細胞を特定し、その細胞だけに、必要な物質を届けることを可能にする技術を開発しました。この画期的な技術は、癌を誘発しない薬、養殖魚介類の疾病予防や、副作用のないがん剤開発、アルツハイマー病などの認知症治療など、幅広い分野への応用の可能性を蓄積するものであります。

※本研究の内容に関しては、国際特許を含めて、9件を特許出願済みです。

当社は、投資会社として、長年、医療分野での産学連携で以下の事業に積極的に取り組んでまいりました。

- (1) 愛媛大学医学部附属病院で、入院患者様に基づいて、ホアルゲイストの病院給薬を提供する事業
- (2) 愛媛大学発ベンチャーで、熱によりがんを治療する方法を研究し、医療機器の開発に取り組み株式会社アドメックへの資本参加並びに事業支援

今後、当社は、医療分野での産学連携事業の一環として、滋賀医科大学と連携して本研究への取組みに賛同し、主体的には、事業推進主体となる法人（以下、創薬ベンチャーといいます。）を設立し、必要な人材や資金、外部のパートナーをこの創薬ベンチャーに集め、創薬化を前提に、研究や臨床実験を進めてまいります。

b. 産学連携における分担内容等

当社は、本産学連携におきまして、

- (1) 事業推進主体となる創薬ベンチャーの設立や、経営、組織運営に必要な事項のバックアップ
 - (2) 研究や事業化、組織の運営のための資金の調達や、株式の上場に関するアレンジメント業務
 - (3) 研究や事業化に必要なパートナーの紹介並びにパートナーの選定に関するアドバイスを
- を行い、当初、当社から創薬ベンチャーに1億円程度の出資を検討し、プロジェクトを立ち上げてまいります。創薬ベンチャーが滋賀医科大学と共同研究講座を設立し、本プロジェクトの事業化のために必要な基礎研究を進めてまいります。

株式会社バイोजィップコード設立のお知らせ (滋賀医科大学との共同研究講座設置に向けて)



http://www.mbkworld.co.jp

2022年1月31日

各位

会社名 マーチャント・バンカーズ株式会社
代表取締役社長兼CEO 小 貫 英 樹
(コード3121 東証2部)
問合せ先 代表取締役副社長 CFO兼財務総務部長 高 崎 正 年
(TEL 03-6434-5540)

株式会社バイोजィップコード設立のお知らせ ～ 滋賀医科大学との共同研究講座設置に向けて ～

2022年1月4日付でお知らせしました、当社と国立大学法人滋賀医科大学との産学連携による糖尿病治療薬開発を推進する創薬ベンチャーといたしまして、以下のとおり、2022年1月31日付で、株式会社バイोजィップコードを設立いたしましたので、お知らせいたします。

(1) 名称	株式会社バイोजィップコード	
(2) 所在地	滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学バイオメディカル・イノベーション施設内	
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役 高崎 正年	
(4) 主な事業内容	1 糖尿病を完治させる治療薬の開発 2 細胞標的化技術の研究開発並びに事業化	
(5) 資本金	1,000万円	
(6) 設立年月日	2022年1月31日	
(7) 大株主及び特株比率	当社100%	
(8) 決算期	毎年12月31日	
(9) 当社と当該会社との関係	資本関係	当初、当社が100%出資する会社であります。
	人的関係	当社の代表取締役1名が、当該会社の代表取締役を兼任いたします。
	取引関係	取引関係はありません。

1. 事業推進のための経営体制

株式会社バイोजィップコードで、資金を調達し、人材を招聘し、また、外部パートナーとの協力関係を構築し、不治の病とされる糖尿病を完治させる治療薬を開発する事業を進めてまいります。当社は、株式会社バイोजィップコードへの1億円程度の出資並びに、資金調達や人材や外部パートナー紹介などにより、株式会社バイोजィップコードをバックアップしてまいります。株式会社バイोजィップコードは、当面、当社代表取締役副社長CFOが代表取締役を兼務するもとに、滋賀医科大学より2名の顧問を招聘し、本年4月から同大学内に共同研究講座を設置し、産学連携での共同研究を進めてまいります。

2023年4月には、事業内容に精通した代表取締役を中心とした、株式会社バイोजィップコードの経営体制を構築いたします。2023年3月までを準備期間とし、当社と滋賀医科大学との協力体制のもと、準備を進めてまいります。

トピック2 (収益物件の取得と売却)

大阪府八尾市の賃貸マンション 「コルティール緑が丘」取得のお知らせ



http://www.mbkworld.co.jp

2022年3月28日

各 位
会 社 名 マーチャント・バンカーズ株式会社
代表取締役社長兼 CEO 小 貫 英 樹
(コード3121 東証2部)
問合せ先 代表取締役副社長 CFO兼財務経理部長 高 崎 正 年
(TEL 03-6434-5540)

大阪府八尾市の賃貸マンション「コルティール緑が丘」取得のお知らせ

当社は、現在、年間7億円台の家賃収入売上を、2023年3月期中に10億円とする目標を掲げて、積極的に収益性と資産性の高い大都市圏の賃貸マンションを取得しております。

今般、10億円の家賃収入売上達成に向けて、2022年3月24日付で売主と売買契約を締結し、2022年4月20日(予定)付で、大阪府八尾市の賃貸マンション「コルティール緑が丘」を取得することを決定いたしましたので、お知らせいたします。

「コルティール緑が丘」の詳細は下記のとおりで、中長期的に保有する方針であり、年間28百万円程度の安定的収入とネット利回り5.4%程度が見込めます。

記

1. 所在地 大阪府八尾市緑ヶ丘五丁目
2. 敷地面積 1,774.43㎡(536.78坪)
3. 構造 鉄筋コンクリート造スレート葺4階建
4. 延床面積 2,321.07㎡(702.14坪)
5. 築年月 1994年7月
6. 取得価格 430百万円(税込)
7. 取得日 2022年4月20日(予定)

取得価格のうち、350百万円は銀行借入により、残額は、自己資金を充当いたします。
本物件取得により、年間18百万円程度、当期純利益が増加する見通しであり、2022年5月13日発表の2023年3月期の業績予想に織り込みます。

10億円の家賃収入売上に向けて、引き続き、拍車をかけて、大都市周辺の資産性の高い賃貸マンションをリーズナブルに取得いたします。

以 上

販売用不動産の売却に関するお知らせ



http://www.mbkworld.co.jp

2022年3月7日

各 位
会 社 名 マーチャント・バンカーズ株式会社
代表取締役社長兼 CEO 小 貫 英 樹
(コード3121 東証2部)
問合せ先 代表取締役副社長 CFO兼財務経理部長 高 崎 正 年
(TEL 03-6434-5540)

販売用不動産の売却に関するお知らせ

当社は、本日付で、保有する販売用不動産の売却を決定いたしましたので、ご報告させていただきます。

1. 売却する物件の概要並びに日程
 - (1) 所在地 札幌市中央区
 - (2) 種 類 共同住宅
 - (3) 構 造 鉄筋コンクリート造陸屋根4階建
 - (4) 契約締結日 2022年3月18日(予定)
 - (5) 決済・引渡日 2022年3月28日(予定)
2. 売却先の概要及び売却価格
売却先及び売却価格につきましては、売却先との守秘義務に基づくそれぞれの売却先の意向により、公表を控させていただきます。なお、当社と売却先の間には、資本関係、人的関係、取引関係はなく、属性について問題はありません。
3. 業績等と与える影響
物件の売却による売上高並びに売却益25百万円(営業利益)を、2022年3月期第4四半期(2022年1月1日～3月31日)に計上いたします。
2021年6月28日に公表いたしました2022年3月期通期の業績予想につきましては、検討の上、必要に応じて、修正させていただきます。
なお、当該不動産は、安定的に賃貸収入を確保するため、長期的に保有しながら、売却により十分な利益が見込める場合には売却することを目的に取得しました。これまで、売却の見通しがなかったことから、連結貸借対照表上、有形固定資産としておりましたが、今般、売却により十分な利益を確保できる見通しが立ったことから、保有目的を変更し、有形固定資産から販売用不動産に振り替えることとし、当該不動産の売買取引は営業取引として会計処理いたします。
4. 今後の方針
当社は、安定的収益基盤の源泉として、長期的に収益用不動産を保有しておりますが、保有物件の入替を行い、引き続き、積極的に物件売却による利益も実現してまいります。

以 上

トピック3 (不動産事業、投資事業強化)

新築マンション開発事業に関する取組みのお知らせ 上場株式を対象とした投資事業強化に関するお知らせ



2022年4月25日

各位

会社名 マーチャント・バンカーズ株式会社
代表取締役社長兼CEO 小 貫 英 樹
(コード3121 東証スタンダード)
問合せ先 代表取締役副社長 CFO 兼財務経理部長 高 崎 正 年
(TEL 03-6434-5540)

新築マンション開発事業に関する取組みのお知らせ

当社は、2021年8月30日付「中期経営計画の修正に関するお知らせ」でご報告させて頂きましたとおり、年間家賃収入10億円の確保を目標に掲げ、大都市部のマンションにターゲットを絞り、積極的に、収益物件購入を進めております。

当社の物件取得は、これまで、ネット利回り5%の確保できる中古物件だけでしたが、さらなる収益性の向上をはかるため、更地を購入し、新築マンションを開発する事業にも取り組んでゆくことといたしましたので、お知らせいたします。

第1号の取り組みとして、すでに大阪府堺市の200坪のマンション開発用地を選定いたしました。この用地を取得のうえ、マンションを建設し、入居者を募集し、安定的で収益性の高い賃料収入を確保するものであります。

当社は、2022年3月期、3件の収益物件の売却により71百万円の利益を確保し、新規物件の取得により家賃収入の拡大しながら、物件の入替えによる利益を上乗せする体制を強化してまいりました。

新たに、新築マンション開発に取り組むことにより、開発後の売却による開発利益も確保しながら、安定的家賃収入を拡大し、堅実に不動産事業を強化してまいります。

新築マンション開発事業につきましても、これまで取り組んできた中古の収益物件購入と同様に、金融機関の協体制のもと、デッドによる資金調達を前提として、リーズナブルで需要の見込める用地を厳選し、効率的な資金運用を行ってまいります。

不動産事業の強化により、さらに強固な収益基盤を確保のうえ、医療や健康の分野を中心に、社会性が高く、将来性や成長性の期待できる事業への取り組みも強化してまいります。

本件により、2023年3月期の業績に与える影響は、現状ございませんが、重要な影響を与える事象が生じましたら、改めて開示させていただきます。

以上



2022年2月21日

各位

会社名 マーチャント・バンカーズ株式会社
代表取締役社長兼CEO 小 貫 英 樹
(コード3121 東証2部)
問合せ先 代表取締役副社長 CFO 兼財務経理部長 高 崎 正 年
(TEL 03-6434-5540)

上場株式を対象とした投資事業強化に関するお知らせ

当社は、中小型の上場株式を対象とした投資事業を強化いたします。

上場株式への投資は、価格変動リスクが伴いますが、下落リスクの小さい上場会社を選別することにより、リスクマネジメントを行います。

2021年12月現在、東京証券取引所上場会社3,715社の46.1%にあたる1,714社が簿価純資産産率1倍以下となっておりますが、収益性や財務内容が健全でありながら、純資産や利益から見て、割安な上場会社を対象に投資を行ってまいります。

2022年4月4日より始動する東京証券取引所の市場区分見直しにより、上場会社には、より一層の株式流動性の確保とガバナンスを求められますが、これに加え、当社から、投資先に、企業価値向上の期待できる業務提携のアレンジや、IR活動強化に関する提案を行うことにより、投資先の株式の流動性や企業価値の向上をはかってまいります。

本日、この取組みといたしまして、第1号案件の投資を行いました。

資金調達や、株式の流動性向上を目的とした発行会社からの相談に応じ、安全性を重視して、上場会社への投資に積極的に取り組んでまいります。

また、当社の貸金業のライセンスを活かし、上場株式を担保にした融資事業についても、積極的に取り組んでまいります。

2022年3月期の業績に与える影響は、現状ございませんが、重要な影響を与える事象が生じましたら、改めて開示させていただきます。

以上

トピック4 (ネット販売事業強化)

株式会社ケンテン ラファン本店サイトのグランドオープンのお知らせ～「KENTEN×LaFan」コラボ商品を中心に商品展開～



2022年4月11日

各位

会社名 マーチャント・バンカーズ株式会社
代表取締役社長兼CEO 小 貫 英 樹
(コード3121 東証スタンダード)
問合せ先 代表取締役副社長 CFO兼財務経理部長 高 崎 正 年
(TEL 03-6434-5540)

株式会社ケンテン ラファン本店サイトのグランドオープンのお知らせ
～「KENTEN×LaFan」コラボ商品を中心に商品展開～

当子会社・株式会社ケンテンは、株式会社ラファンと協業し、ショッピングモール「Lafan」におきまして、株式会社ケンテンが企画する商品の販売に取り組んでおりますが、令和4年4月12日付で、ラファン本店サイト (<https://lafan.co.jp/>) をグランドオープンに加え、「KENTEN×LaFan」コラボ商品の販売を強化いたしますので、ご報告させていただきます。

「KENTEN×LaFan」独自の販売サイトとして、ラファン本店サイトをオープンすることにより、今まで培ったリアルショップでの販売、オンラインでの販売の経験を活かし、お客さまのニーズにあった商品を直接提供することが可能になり、「KENTEN×LaFan」ならではの魅力ある商品をご紹介します。

従前の販売サイト「KENTEN×LaFan」で、お客様からのご支持を頂いてまいりました、株式会社ロワード(メンズバッグ)、株式会社エクルー(レディースバッグ)、株式会社関家具(家具メーカー)といったメーカーを中心に、ファンション性、機能性の高いバッグ、小物、家具をラインナップいたし、魅力ある商品を毎月100～200商品を増やしていきます。

加えて、健康を意識したマーチャント・バンカーズ・グループとしての、独自のオリジナルサプリメント商品の販売も視野に入っており、当社グループは、健康関連メーカーとの提携により、当社グループのみで扱える、オンリーワンの商品を増やしていくことを目指していきます。

以上

SDGsへの取組みとしてNFT LaFanにおけるパラリンアート作品プレミアム販売開始のお知らせ



2022年4月4日

各位

会社名 マーチャント・バンカーズ株式会社
代表取締役社長兼CEO 小 貫 英 樹
(コード3121 東証スタンダード)
問合せ先 代表取締役副社長 CFO兼財務経理部長 高 崎 正 年
(TEL 03-6434-5540)

SDGsへの取組みとしてNFT LaFanにおけるパラリンアート作品プレミアム販売開始のお知らせ

当社は、上場会社として、国連が提唱するSDGs(持続可能な開発目標)に、積極的に取り組んでまいります。

SDGsへの取組みの一環といたしまして、障がい者支援に対する社会全般の理解を深める活動に取り組んでおります。

2022年1月24日付でご報告させて頂きましたとおり、当社は、障がい者アーティストを発掘・育成・支援する事業であります「パラリンアート」に取り組んでおります、一般社団法人障がい者自立推進機構(所在地:東京都港区、代表理事:中井 亮)と、オフィシャルパートナー契約を締結し、NFTマーケットプレイス「NFT LaFan」におきまして、パラリンアート作品を、NFTとして販売する事業を開始いたしました。

これまでは、主に法人のお客様をターゲットに、パラリンアート作品のNFT販売を行ってまいりましたが、今般、ターゲットを、一般個人のお客様にも広げ、本格的に、パラリンアート作品のプレミアム販売を開始することといたしましたので、お知らせさせていただきます。

一般個人のお客様向けのプレミアム販売につきましては、障がい者アーティストの皆様が提供する作品を、幅広く認知していただくため、作品の価格は一律定額とし、購入していただく方には、どの作品が届くか、開けてみてのお楽しみとする、ガシャポン方式を採用いたします。

収益金の一部は、障がい者支援のため、一般社団法人障がい者支援機構に寄付し、当社は、このパラリンアート作品のNFT化を通じ、引き続き、社会貢献事業として、障がい者がある方々の、社会参加と経済的自立の支援に取り組んでまいります。

以上

貸借対照表

単位:百万円	2021年3月末	2022年3月期末
流動資産	1,021	1,358
現預金	523	1,056
受取手形及び売掛金	67	69
投資有価証券・販売用不動産	303	10
その他	128	223
固定資産	9,504	9,488
有形固定資産	9,262	8,871
無形固定資産	43	43
投資その他の資産	190	573
総資産	10,517	10,847
流動負債	486	925
買掛金	31	35
短期借入金	307	753
その他	148	136
固定負債	6,558	5,794
長期借入金	6,486	5,723
その他	72	71
純資産	3,473	4,127
株主資本合計	3,468	4,123
その他包括利益累計等	▲18	3
負債純資産合計	10,517	10,847

●自己資本比率32.8% → 38.0%

●長短借入金6,477百万円

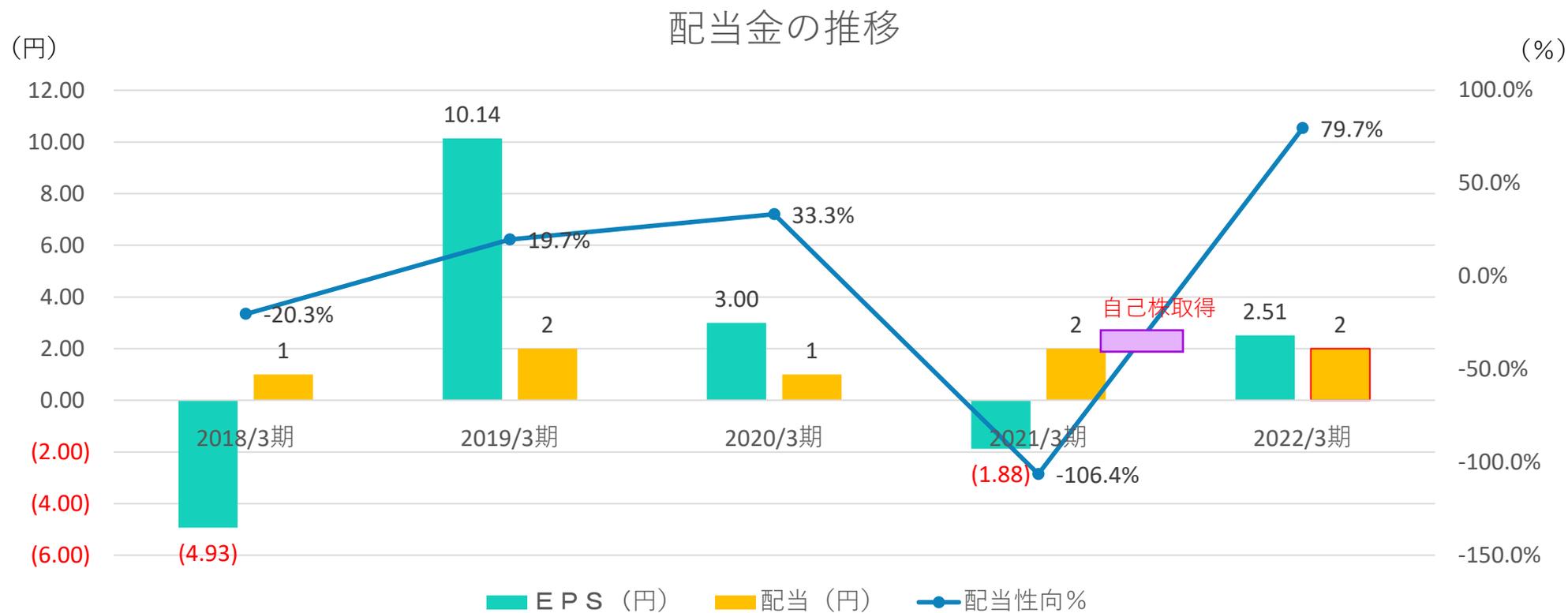
通期（2023/3期）業績予想

- 新型コロナの影響はワクチンの普及により下期以降に経済活動の回復を見込み、オペレーション事業におけるホテルオペレーションの撤退による減収をマーチャント・バンキング事業の成長でカバーし、**増収・増益を計画**。
- 各段階利益も前期比で**二桁増益を計画**。

(百万円)	2022/3期 実績	構成比%	2022/3期 上期計画	2022/3期 通期計画	構成比%	前期比 %
売上高	2,747	100%	1,000	2,750	100%	+1.1%
マーチャント・バンキング	2,080	76.5%	650	-	-	-
オペレーション	640	23.5%	350	-	-	-
営業利益	335	12.3%	250	500	18.2%	+49.2%
経常利益	218	8.1%	200	360	13.1%	+64.4%
当期純利益	113	2.6%	130	230	8.4%	+102.0%

株主還元 & 配当方針

- 今期自己株取得を実施：36百万円（発行済株式の0.43%、1.3円分/株）
- 安定配当を前提に、成長への内部留保と株主還元の継続性を基本方針



【お問い合わせ先】

マーチャント・バンカーズ株式会社

代表取締役副社長 C F O 兼財務経理部長

高崎 正年

T E L : 03-6434-5540

■本資料の注意点

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。本資料に掲載されている業績見通し、中期計画、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づき当社が予測したものです。実際の業績は、様々なリスク要因や不確実な要素により、業績見通しと大きく異なる可能性があります。本資料中の情報によって生じた影響や損害について、当社は一切責任を負いません。なお、いかなる目的であれ、本資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようお願いいたします。